

描画による現実のプロポーションに対するイメージの測定

文 教 大 女 短 大 (非) ○ 佐 藤 由 紀 子 山 陽 学 園 短 大 江 口 玲 子 就 実 短 大 杉
 本 智 枝 子 大 関 (東) 院 女 中 藤 短 大 紀 子 山 陽 学 園 短 大 江 口 玲 子 就 実 短 大 杉
 短 大 茂 呂 裕 子 田 中 美 智 安 盛 都 子 東 山 共 立 女 家 野 惠 小 林 茂 川 村 雄

<目的> 着衣基体である身体の計測及びプロポーションの観察については、これまでマルチン法、シルエッター法、石膏法などにより検討が行われてきた。今回一連の研究ではイメージに焦点をあてた研究であるので、ここでは1つの新しい方法として自己の現実のプロポーションのイメージを描画課題を用いて描かせ、視覚的イメージを計量的に測定する試みを行った。

<方法> 被験者は前報の対象者767名のうち、女子短大生201名を対象とした。身体の基本画としてベースに中沢愈氏の「衣服造形のためのプロポーション」*を使用し、被験者が思い描いている自己のプロポーションを描画させた。顔の大きさ、肩の角度、バスト寸法、ウエストのくびれ、ヒップ寸法、脚の長さ、大腿の太さなど26項目について基準線を引き、基本画とイラスト画との差を測定し、因子分析及びクラスター分析を行った。

<結果> 因子分析の結果、基本的因子として腹部の肉づき、背面から殿部の肉づき、下半身の幅に関する因子、乳房の高さ、首と肩幅に関する因子、肩傾斜と腕の長さに関する因子、背丈・腰丈の丈に関する因子等9つの因子が抽出された。クラスター分析の結果はおおまかに7つのグルーピングが可能である。描画の全体的な傾向を見ると、因子分析やクラスター分析の結果とおおよそ一致した分類となっている。

* 中沢愈：衣生活研究，4，No.3・4，78（1977）